海外教育旅行の実態

日修協まとめ

修学旅行

韓国、米国、豪州が上位に

費用平均は5.5泊18万円

日本修学旅行協会（阿部充夫会長）がまとめた海外教育旅行実態調査によると、中学校・高等学校（小学校・特別支援学校の一部含む）の修学旅行や語学研修・ホームステイなどの実施状況は、09年度が2304件13万9324人、このうち修学旅行は859件で10万8508人だった。以下、同調査の概要を紹介する。（20面に関連記事）

◆海外修学旅行の推移

海外修学旅行が戦前も実施されていたことは周知のとおりだが、確かな数値は詳らかでない。

1988年の文部省全国都道府県教育委員会指導事務主管部課長会議において、69年の文部省通達に関して、「航空機利用や海外への修学旅行を禁止しているものではない」との見解が明らかになったことにより、91年度以降、飛躍的な増加傾向を示して、00年度には116件、18万7673人の中学・高校生が海外修学旅行を体験している。

国際化に伴った国際理解教育の必要性や、私立学校を中心とした学校の特色化を図るため、海外修学旅行・語学研修が大きな流れとなって増加してきたようだ。

◆訪問国・地域

09年度における海外修学旅行の実施数は859件、10万8508人だった。一方、10年度の計画数は1055件、12万6438人となり、前年度同期の計画数1054件に比べて1件の増加。この計画数の低迷は、世界的に猛威をふるった新型インフルエンザのパンデミック、社会経済事情などにより、海外修学旅行の実施にかかわる慎重な調整に起因するものと考察する。

海外修学旅行の訪問国の数については、09年度計画33カ国、当年度は36カ国となりカンボジア、モンゴル、エクアドル（ガラパゴス）などが加わった。

海外修学旅行の件数が増加傾向にあった時期＝93～00年＝には訪問国の数が増えていたが、ここにきて訪問国の数は前述の範囲内にある。

訪問国・地域、件数ベースから分かるように、中学校における訪問国・地域についてはオセアニア（オーストラリア、ニュージーランド）38％、北アメリカ（アメリカ合衆国、カナダ）17％、韓国16％が上位3カ国である。また、高等学校では韓国18％、北アメリカ16％、オセアニア15％の順となる。

なお全体の訪問国（地域）別件数における上位10カ国は別表のとおり。

◆実施時期

海外修学旅行の実施時期は中学校で3月、10月、11月、5月の順となり、実施時期の上位3カ月は中学校全体の47・8％を占めている。

一方、高等学校における海外修学旅行実施時期の上位は10、11、12月の秋・冬季となっており、国内修学旅行の実施時期と同じ傾向にある。また、この上位3カ月で高等学校全体の59・3％を占めている。

◆海外修学旅行における泊数

中学校における宿泊数は、3～7泊の件数が75件で、中学校全体の66・4％を占めている。

また、11泊以上が20件（17・7％）で際立っている。中学校の海外修学旅行は、私学の件数が比較的多く、泊数の多いことが特徴といえる。

高等学校における宿泊数については、3～6泊の件数が全体の82・1％を占めており、中でも4泊が最も多く5泊はこれに続く。かたや、教育委員会の修学旅行実施基準に基づいた中学校と高等学校の平均的な許容日数（範囲・傾向）の影響もうかがえる。

訪問国・地域別の泊数では、韓国、中国、シンガポールおよびミクロネシアでは、3～5泊が目立つ。またオセアニア、北アメリカでは4～7泊が多くなり、ヨーロッパになると5～8泊が中心となる。

さらに、11泊以上の海外修学旅行も目につくところであり、旅行中にホームステイやファームステイ、語学研修、学校間（姉妹校）交流、美術や音楽研修などの学習プログラムを兼ねている。

また、遠距離になるにつれて泊数が増加することは必然のことである。

ちなみに、海外修学旅行全体における平均宿泊数は5・5泊である。

◆海外修学旅行の費用

海外修学旅行の費用は、全体平均（小学校・中学校・高等学校）の5・5泊で17万9225円。私立中学校は7・4泊で23万9320円、私立高等学校は6・0泊で20万5083円、公立高等学校は4・2泊で11万6089円、公立中学校は5・0泊で14万3553円となった。従前のことではあるが、私立中学校が私立高等学校より泊数、費用ともに多いことが目に留まる。また、私立高等学校においては、海外修学旅行の実施が一般的であるのに対し、私立中学校では年々一般化しつつあるものの、私立高等学校と比してまだ件数、人員は少ない。

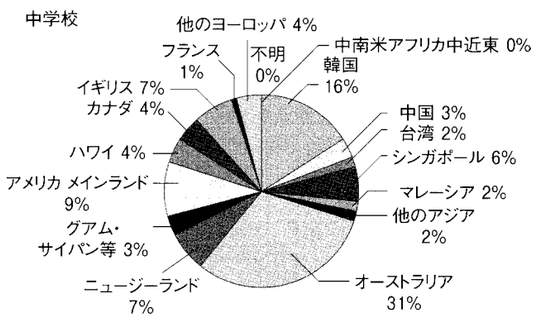
目立つ点としては、教育効果や内容、質における一層さらなる工夫と充実を模索する私立校の姿勢がうかがえる。

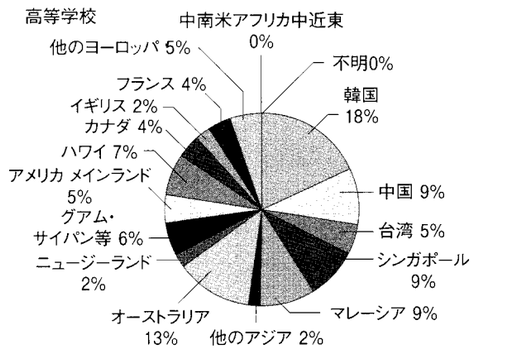
海外修学旅行件数及び人員の推移

年度		件数	人員
1982	昭和57	65	9,955
1983	58	52	8,565
1984	59	79	15,079
1985	60	83	22,567
1986	61	133	29,597
1987	62	157	36,658
1988	63	184	50,961
1989	平成元	203	56,309
1990	2	181	54,485
1991	3	300	72,290
1992	4	303	73,550
1993	5	430	91,420
1994	6	518	106,763
1995	7	616	124,493
1996	8	783	139,460
1997	9	840	140,628
1998	10	992	152,972
1999	11	1,069	169,832
2000	12	1,163	187,673
2001	13	599	83,964
2002	14	1,111	173,466
2003	15	536	73,746
2004	16	1,066	149,086
2005	17	1,132	155,023
2006	18	1,191	156,579
2007	19	1,396	175,455
2008	20	1,325	166,345
2009	21	859	108,508
2010	22	1,055	126,438

※2009年度までは実施数
2010年度は計画数

訪問国・地域別割合（件数ベース）





訪問国（地域）：平成21（2009）年度との比較（%）

国名	H22年度	H21年度	増減%	割合%
韓国	209	157	133.1	18.3
中国	100	66	151.5	8.8
シンガポール	95	98	96.9	8.3
マレーシア	96	82	117.1	8.4
他アジア	21	12	175.0	1.8
オーストラリア	172	139	123.7	15.1
ミクロネシア	61	57	107.0	5.3
北アメリカ	177	145	122.1	15.5
ヨーロッパ	104	87	119.5	9.1
中南米アフリカ中近東	2	0		0.2
不明	2	0		0.2
計	1141	756	150.9	100.0

H21年度は実施件数、22年度は計画件数（小・中・高、延べ件数）
北アメリカとはアメリカ合州国及びカナダを指し、両国にまたがる場合は一件とする。

海外修学旅行における訪問国（地域）：上位10

22年度順位	国名・地域	22年度件数	21年度順位	21年度件数
1	韓国	209	1	157
2	オーストラリア	172	2	139
3	中国	100	6	66
4	マレーシア	96	4	82
5	シンガポール	95	3	98
6	ハワイ	75	5	67
7	USAメインランド	62	9	46
8	ミクロネシア	61	8	57
9	台湾	54	7	61
10	カナダ	46	10	34

H21年度は実施件数、22年度は計画件数（小・中・高、延べ件数）

海外修学旅行費用

訪問先別　単位：円

金額＼訪問先	韓国	中国	シンガポール	マレーシア	その他アジア	オセアニア	ミクロネシア	北アメリカ	ヨーロッパ	中南米、アフリカ、中近東
上限	184,000	250,000	350,000	307,617	280,000	500,000	235,000	570,000	630,000	457,000
下限	55,000	69,609	87,500	83,500	95,200	76,600	83,500	100,000	90,000	170,000
平均	102,420	132,091	139,445	132,249	158,262	245,349	128,835	233,422	282,727	313,500
平均泊数	3.9	4.4	4.6	4.5	5.8	7.6	4.3	6.2	7.5	5.0

高等学校・中学校・小学校等における海外修学旅行

実施校種別　単位：円

	公立中学	私立中学	公立高校	私立高校	公立中・高	私立中・高	公・私中学	公・私高校	全体
上限	350,000	467,000	300,000	630,000	350,000	630,000	467,000	630,000	630,000
下限	57,000	68,000	59,960	55,000	57,000	55,000	57,000	55,000	55,000
平均	143,553	239,320	116,089	205,083	117,680	209,546	221,824	173,691	179,225
平均泊数	5.0	7.4	4.2	6.0	4.3	6.1	6.9	5.3	5.5

「全体」は高等学校・中学校・小学校等における海外修学旅行

注目の海外修学旅行先

HAWAI'I
Hawai'i Tourism Japan
ハワイ州観光局

アメリカ合衆国ハワイ州
時差：マイナス19時間
人口：約120万人
面積：16,634平方キロメートル
気候：熱帯・亜熱帯気候に属するが、地球上に存在する13の気候帯のうち11の気候帯を有する
公用語：英語、ハワイ語

歴史（©ハワイ州観光局）

文化（©ハワイ州観光局）

「学びの宝庫」ハワイ

6つの学習素材テーマ

年間100万人以上の日本人が訪れ、観光リゾート地としてのイメージが強いハワイ。訪れる人をアロハ・スピリットで迎え、幸せな気分にする不思議な魅力だけでなく、教育旅行に適した「学べる」素材が数多くある。

◆歴史&史跡

火山の噴火によって生まれた島々、ポリネシア人の渡来、王朝時代を経て、ハワイ全島統一までの過程。日系移民の歴史があり、今でも日本文化が人々の生活に根付いている。日本人でも意外と知らない自分たちの文化や歴史を外から改めて見直す大切さに気付くことができる。平和に関して第二次世界大戦を学べる場所、パールハーバーもあり、学べる素材には事欠かない。

◆文化

アメリカの1つの州でありながら、太平洋の真ん中に浮かぶ島であるハワイは、独自の文化や伝統を持つ珍しい州。日本でも人気が高まっているフラ。心地よいハワイアン・ミュージックに合わせて踊るエンターテイメントの1つと思われているかもしれないが、元々は神に捧げる神聖な踊り。動き1つひとつにも実は深い意味がある。他にも「アロハ・スピリット」の象徴とも言われるレイ、音楽に欠かせないウクレレ、ハワイの正装アロハ・シャツ。これらの文化体験を気軽に体験することができること、こうした独自の文化が発展した歴史をひも解いてみるだけでも多くのことを学ぶことができる。

◆自然

世界中の13のうち、11の気候が存在するハワイ諸島。ビッグ・アイランド（ハワイ島）にあるハワイの最高峰4205メートルのマウナケアには日本のすばる望遠鏡があり、世界有数の天体観測地として知られている。世界遺産で、今でも活発な活動を続けているキラウエア火山のある「ハワイ火山国立公園」では噴火口や溶岩が流れ冷えて固まってできた溶岩トンネルなど自然の脅威を目の当たりにできる。天文、火山、植物、海洋動物など学生の好奇心を満たすバラエティ豊かな本物のハワイに出会える。

自然（©HTA Kirk Lee Aeder）

◆産業

アメリカで唯一コーヒーやバニラを栽培している農園もあり農業が盛んなハワイ。「地産地消」も浸透し、またハワイ産の農作物の品質を保証するプログラム「シールズ・オブ・クオリティ」という認定制度もある。これらメイド・イン・ハワイの生産物が販売されているファーマーズ・マーケット（朝市）も各所でみられる。クリーンビジネスやバイオテクノロジーも注目されている「経済」や養殖も行われている「水産業」、急成長を遂げた「観光業」。ハワイ独自の産業を通じてハワイの経済、ホスピタリティ、社会そのものを学べ、日本との相違点を比較し考えることもできる。

◆語学・現地交流、その他プログラム

ハワイの学生との交流プログラムを通して生きた英語を話すチャンスに加え、規則や生活習慣の違いも体験できる。生の英語に触れることで帰国後の学習意欲が向上したという話も多い。ハワイの多様な学習要素を組み合わせ、それぞれの分野の専門家から学ぶことのできる野外体験プログラム。仲間と協力することで協調性や自立心を高めるチームビルディングなど豊富なプログラムがある。

◆イベント

年間通じて開催されているイベント、参加型の文化・スポーツイベント、ビーチクリーンアップのボランティアなど年間通じてさまざまな体験プログラムがある。年間開催されているものは自由時間のグループ別行動に組み込みやすく、地元の人（ロコ）と一緒に参加することでハワイらしさを体験できるなどメリットが多い。また最近ではイベントへ参加することを目的にした教育旅行も企画され、チームワーク力を高める効果も期待できる。

学びのポイントを分野ごとに体験できる素材集、ハワイ滞在中にハワイ文化、日系人、教育、天文学などその分野に関して詳しい話を語ってくれる人の紹介、また実施校レポートなど、ハワイでの教育旅行、研修旅行に役立つ情報をまとめて紹介している冊子となっている。

＜資料請求に関して＞
◆一般・学校関係者http://www.gohawaii.jp/
◆旅行業界・メディア関係者（新規登録＆ログインが必要です）http://www.gohawaii.jp/member/
ウェブサイト：www.gohawaii.jp
問い合わせ：aloha@htjapan.jp

海外修学旅行の泊数（訪問先別）　延べ件数

泊数＼訪問先	韓国	中国	シンガポール	マレーシア	その他アジア	オセアニア	ミクロネシア	北アメリカ	ヨーロッパ	中南米アフリカ中近東	不明	件数合計
2泊	7	1										8
3泊	74	15	13	19	1	3	14	9		1		149
4泊	74	45	32	32	4	23	20	35	8			273
5泊	40	26	38	33	8	44	21	49	22			281
6泊	5	10	7	10	3	44	4	33	21		1	138
7泊	5	2	1	1	3	31	1	16	18	1		79
8泊		1			1	15		8	14			39
9泊						3		6	3			12
10泊			1			6		2	2			11
11泊以上			1	1	1	33		17	14			67
件数	205	100	93	96	21	202	60	175	102	2	1	1,057
不明	4		2			1	1	2	2		1	13
合計	209	100	95	96	21	203	61	177	104	2	2	1070
%	19.5	9.3	8.9	9.0	2.0	19.0	5.7	16.5	9.7	0.2	0.2	100.0

高等学校・中学校・小学校等における海外修学旅行
訪問国・地域が複数あり、延べ件数にて記載
この場合の「その他アジア」とはモンゴル、インド、カンボジア、タイランド、インドネシア、フィリピン、ベトナム、モルジブ、ネパール、ミャンマー、バングラデシュ等を指す

修学旅行以外の教育旅行

7割弱が語学研修

旅行先は圧倒的に英語圏

◆旅行の推移

年度別合計（件数・人員）で思い出されることは、08年9月に発した世界金融危機とその半年後（09年3月）に流行りだしたパンデミックの影響と余波である。前者では、研修実施の年度途中でもあり、影響はそれほど目立っていないが、後者の影響は顕著なものとなって現れ、09年度実施の研修は件数ベースでは前年比80・4％（1478件）、人員で83・3％（3万4059人）となった。

10年度の計画数は、1671件、4万3756人である。件数ベースでは07年度並みであり、人員では06年度に迫るものである。

また、10年度の計画には、前年度におけるパンデミック対策、社会経済事情に対応した旅費の工夫、学習効果の追求、内容の充実化等を慎重に企図したものがうかがえる。

10年度の目的別研修は、「語学研修」が修学旅行を除いた教育旅行全体の67・5％（前年度67・1％）を占め、国際理解教育、国際交流・相互理解などへの根強い志向があり毎年安定したシェアを占めている。

語学研修以外の「その他の研修」は15・1％（前年度14・5％）。内容は、学校間（姉妹校）交流、インターラクト（相互交流）、ファームステイ、交流事業・交流研修、市町村中高生派遣事業、海外体験研修、美術研修、農業研修、商業実習、文化財見学・研修、企業見学などであり、年を追うごとに研修の焦点がしぼられ、その目的が明確化しつつある。

「留学」は9・2％（前年度10・％）で比率が下がる。主な留学先はオーストラリア、アメリカ（メインランド）、ニュージーランド、カナダ、英国、中国などである。

「その他遠征等」は8・0％（7・9％）であり、内容はインターラクト海外研修、クラブ試合、遠征と交流、ボランティア活動と研修、演奏旅行、野生教室ワーク・キャンプ、介護実習・施設見学、現地企業訪問・見学など。

◆訪問国・地域

語学研修での訪問国・地域は、オーストラリア375件1万128人、アメリカ（メインランド）229件5365人、ニュージーランド156件5606人、カナダ146件4564人、英国（UK）136件4416人、ハワイ26件1558人、中国21件293人、韓国18件452人と続いて、圧倒的に英語圏が多い。

その他の研修は256件で7392人。訪問国・地域の上位3カ国は、アメリカ（メインランド）48件1105人、韓国28件607人、オーストラリア26件1022人であり、中国23件561人が続く。

ちなみに、研修の内容は多岐にわたっている。

留学の件数は前年度（09）に比して92・3％、155件で人員は1324人。件数は減っているものの、人員は増えている。また、主たる留学先は、オーストラリア40件333人、アメリカ（メインランド）28件301人、ニュージーランド22件326人、カナダ22件184人となる。ほかに英国15件77人、中国8件44人が続く。

その他遠征等は、136件で、訪問国別件数の上位5は、韓国21件752人、オーストラリア21件282人、アメリカ（メインランド）20件226人、中国11件158人、カナダ9件107人。

◆実施時期

「実施時期は、7月が577件（前年度572件）で最も多い。続いて3月が330件（同290件）、8月253件（同224件）となり、長期休業日を中心とした研修計画になっている。

また、夏期休業中の7～8月にかけて実施される研修は、全体の49・7％（同50・8％）にのぼり、3月を含むと69・4％（同69・3％）を占める。

◆旅行泊数

韓国、中国、シンガポールをはじめとする東南アジア諸国は3～8泊で、オセアニアのオーストラリア、ニュージーランドでは5～20泊が主であり、言うまでもなくホームステイ語学研修、ファームステイが多い。

一方、北アメリカでは7～22泊が主で語学研修やホームステイ、短期留学などが占めている。また、ヨーロッパ諸国については7～22泊が主であり、語学研修やホームステイ、美術や音楽研修、演奏旅行などである。

旅行目的別の平均泊数については、「語学研修・ホームステイ」が18・0泊（同16・9泊）、「その他の研修」が8・6泊（同11・2泊）、「90日未満の短期留学」25・7泊（同26・0泊）、「90日以上の長期留学」324・0泊（同327・9泊）である。

また、90日以上の長期留学のうち88・5％（同80・0％）に当たる69件（同85件）が300日を越える長期間の留学であり、最長は365泊（同396泊）に及ぶ。

その他遠征等の平均泊数は14・1泊（同23・6泊）となっている。

◆旅行費用

旅費の平均は、語学研修が17・5泊で35万4767円（同16・6泊で35万4952円）、その他の研修が8・6泊で24万5179円（同11・9泊で27万9484円）、留学の90日未満が26・1泊で40万5339円（同25・7泊で40万7817円）、90日以上の長期留学が320・0泊で216万6058円（同322・7泊で184万5275円）、その他遠征等は13・9泊で22万7167円（同24・8泊で29万9896円）となっている。